

## かな漢字変換 IME (Input Method Editor) で異体字を使う

パソコンでキー入力し、かな漢字変換をすると該当する文字が表示されますが、氏名や地名では読みは同じでも形の違う文字（異体字）に変換されることがあります。このとき変換を繰り返しても欲しい文字の形が出ないことを経験したことはありませんか。

例えば、地名では「東京都葛飾区」は「とうきょうとかつしかく」を変換するとそのまま使えますが、「ならけんかつらぎし」は変換すると「奈良県葛城市」となり、変換を繰り返しても本来の「奈良県葛城市」とはなりません。

普通の変換した結果 **奈良県葛城市**

本来の文字 **奈良県葛城市**

実は、WindowsXP では、この逆で「東京都葛飾区」となり本来の表示ができていませんでした。

なぜこのようになっているかという、使用している日本語文字コードセットが WindowsXP まで使われていた JIS90 から、WindowsVista 以降では JIS2004 に変更されているためです。JIS90 から JIS2004 に改訂したとき 168 文字の字形を変更しています。しかし、少々複雑になりますが、フォントにより字形が変更されていない場合があります。詳しくは株式会社モリサワが出している「WindowsVista で変わる文字環境（2007 年 6 月）」（下記 URL）を参照してください。

[https://resources.morisawa.co.jp/uploads/tmg\\_block\\_page\\_image/file/1622/vista\\_blue.pdf](https://resources.morisawa.co.jp/uploads/tmg_block_page_image/file/1622/vista_blue.pdf)

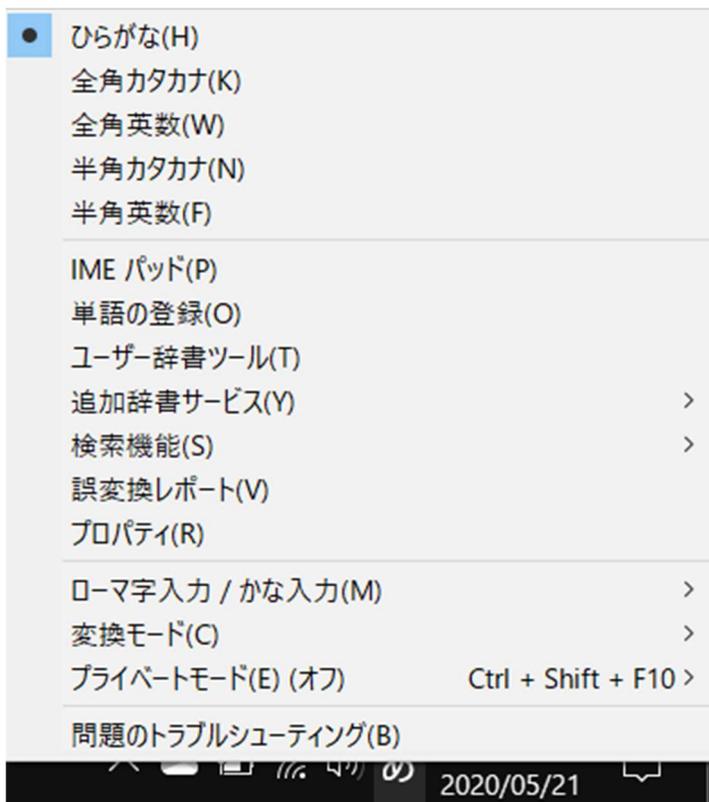
Windows では、MS 明朝や MS ゴシックでこの 168 文字のうち、122 文字が変更されています。この変更による混乱の回避策として Windows7 までは JIS90 互換フォントが標準で提供されていましたが、Windows8.1 以降は標準では提供されていません。

Windows 8.1/10 の日本語入力システム（Microsoft IME：以下、MS-IME）には、「IVS（Ideographic Variation Sequence、異体字シーケンス）」と呼ばれる機能がサポートされており、この機能を有効にすることで、MS-IME で異体字（同じ漢字でも異なる字形）が選択できるようになっており、JIS90 から JIS2004 へ改定されたときに変更された字体にも対応できるようになっています。IVS とは、異体字に「異体字セレクタ」というコードを付けることで、同じ文字コードであっても異なる字形を選択可能にするものです。

そこで、Windows 8.1/10 の MS-IME で、IVS を有効にする方法を紹介します。

1. タスクバーの右にあるインジケータ領域にある MS-IME のアイコン [あ] または [A] を右クリックします。（文字の入力ができない場合は表示されません）

表示されたメニューの [プロパティ] をクリックします。



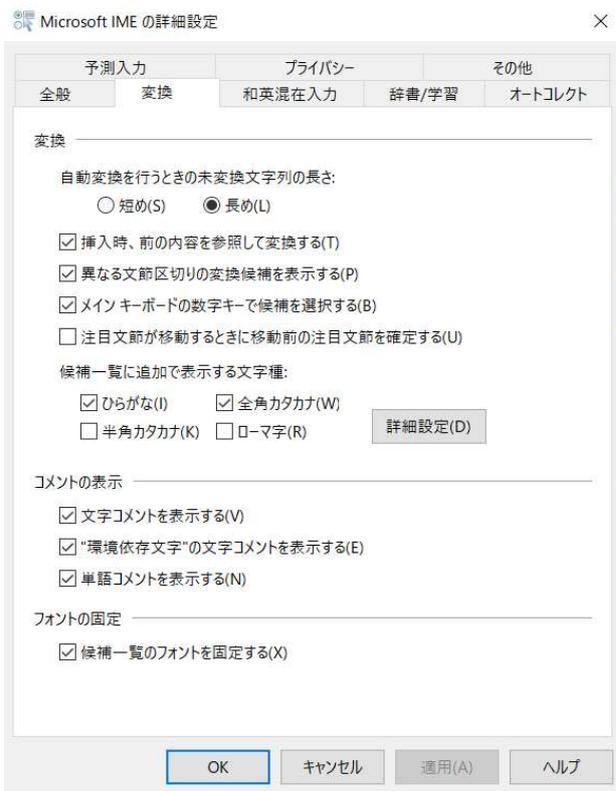
2. [Microsoft IME の設定] ダイアログボックスが表示されます。  
[詳細設定] をクリックします。



3. [Microsoft IME の詳細設定] ダイアログボックスが表示されます。

[変換] タブをクリックします。

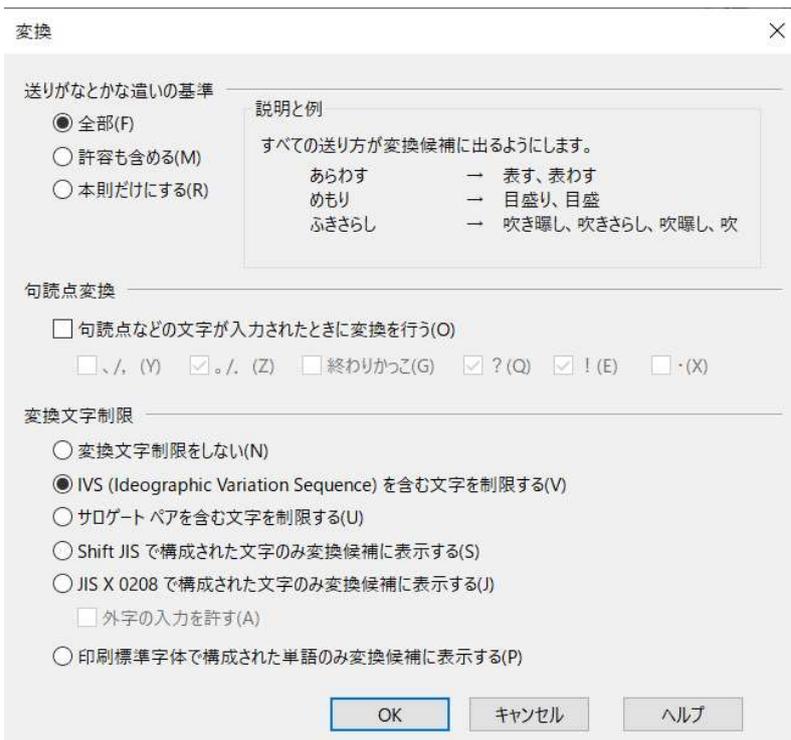
[詳細設定] をクリックします。



4. [変換] ダイアログボックスが表示されます。

「文字変換制限」にある「変換文字制限をしない」を選択します。

標準では 2 行目の [IVS(Ideographic Variation Sequence)を含む文字を制限する] が選ばれています。



5. [OK]、[OK]をクリックしてダイアログボックスを閉じます。

これで、変換候補に異体字が表示され、選択可能にできます。ただし、上にも書いたようにフォントやアプリケーションによっては、JIS90 の字形 (IVS による異体字表示) がサポートされておらず、選択や表示ができないことがあります。また異体字 (JIS90 の字形を含む) は機種依存となっているため、その字体を使ってメールなどで送信したときに受信した側では JIS2004 の字体で表示されることがあるので注意してください。

「わたなべ」の例

渡辺、渡部、渡邊、渡邊

「さいとう」の例

斉藤、斎藤、齋藤、齊藤、齋藤